

映像・音声・テキストで利用できる  
「患者の語り(DIPEX-Japan)」を  
教材活用した授業の実際  
—活用目的に焦点を当てて—

---

射場典子(認定NPO法人健康と病いの語りディペックス・ジャパン)

森田夏実(東京工科大学医療保健学部)

一般社団法人  
日本看護学教育学会 第26回学術集会  
COI 開示

筆頭演者名：射場 典子

今回の演題発表に関連し、開示すべき  
COI はありません。



# DIPEx-Japan (ディベックス・ジャパン)とは

- 英国オックスフォード大学で作られている **D**atabase of **I**ndividual **P**atient **E**xperience (since 2001, 現 [healthtalk.org](http://healthtalk.org), [youthhealthtalk.org](http://youthhealthtalk.org)) のデータ収集・分析・公開の手法をモデルにして作られた、日本で唯一の公式サイト
- 乳がん(2009)、前立腺がん(2010)、認知症(2013)、大腸がん検診(2014)
- 1つの疾患につき、多様性を確保するため30-50名にインタビュー
- 個々の同意に基づき、映像・音声・テキストの形で公開(語りはテーマ別に2-3分に編集、1人につき5-10程度、各疾患につき300-400前後、計1500↑の編集した語り)
- 語りを社会資源として一般に公開⇒患者・家族の支援、社会への情報提供、医療者・学生の教育、語りを用いた研究、患者体験学の創生などを旨とする

# 健康と病いの語りウェブサイト

ディベックス・ジャパン | 健康と病いの語り



[はじめての方へ](#)



[お問い合わせ](#)



認定NPO法人 健康と病いの語り ディベックス・ジャパン  
がんや認知症の体験談を動画や音声でお届けしています



[「健康と病いの語り」  
とは](#)



[会員専用ページ](#)

[ディベックス・  
ジャパンについて](#)



健康と病いの語り

[認知症の語り  
dementia](#)

[乳がんの語り  
breast cancer](#)

[前立腺がんの語り  
prostate cancer](#)

[大腸がん検診の語り  
bowel screening](#)

健康と病いの語り

—— 健康と病いの語りデータベース・DIPEXとは？  
患者ひとり1人の病気体験のデータベース

夫が右胸のピンポン玉のようなしこりに気づいたが、まさか20代で乳がんになるとは思わなかった

[公開日] 2009/11/20



**プロフィール**

**インタビュー42**  
 診断時: 27歳  
 インタビュー時: 33歳 (2008年10月)  
 九州地方在住。2002年春、右乳がん、右乳房切除術とリンパ節郭清、同側再建 (エキスパンダー挿入)、術後化学療法を受けた。エキスパンダーは、術後アレルギー反応を起こして取り出すことになり、その後、再建はしていない。当時、産婦で授乳中の子どもと夫の3人暮らし。治療中は子どもと2人で九州の美郷で過ごした。その後、夫も産後を離れ、現在は家族3人で暮らしている。

[詳しいプロフィールを見る](#)

**インタビュー内容テキスト**

一番最初は、ちょうど誕生日の日で、主人が、「自分の、右の胸のあたりを触ってごらん」って突然主人が言ったんですから。で、触ってみたら、ほんとに、ピンポン玉のごう玉のような少し柔らかめのやつがあって、手に触れて、で、びっくりしたんですけど、で、主人に、「これ、いつからあった?」って聞いたら「だいたい、前からあったんだけど、自分では全然気にしてなくて」って。「だけど、まあ、なかなかその言うタイミングもなかったから、ほっといたんだけど、最近、大きくなってきよ」って言われたんです。で、自分でも、こう授乳中だったもんですから、息子に、「その胸を触るといっても、おっぱいマッサージをしたりとか、授乳のときに触るのも気づくことできています」

**テーマ大分類**  
 乳がんの場合は  
 発見、治療、  
 再発・転移、生活  
 に分かれています

**テーマ**  
 しこりの発見、各々の  
 治療について、再発や  
 転移の発見、生活や  
 仕事、妊娠・出産など  
 27のテーマがあります

**異常の発見**

ここでは、どのように乳がんの徴候に気づいたか、受診に至るまでどのように感じたり、考えて行動したか、について体験者の声を紹介しています。

乳がんが見つかった経緯には、自分自身でしこりなどの症状に気づいた場合と、他者に指摘された場合、検診などで異常を指摘された場合があります。(「受診については、[乳がん検診](#)に関する内容が掲載されています)

**妊婦中に硬く感じるしこりを見つけ、直観的にがんだと思って一晩泣き明かした** [語りを見る](#)

**夫が右胸のピンポン玉のようなしこりに気づいたが、まさか20代で乳がんになるとは思わなかった** [語りを見る](#)

このように乳がんの症状として、しこりがよく知られていますが、しこりと一口に言っても、硬いという人も柔らかいと言現する人もいて、サイズや形、場所もさまざまです。そして、それが異常なものかどうか判断することは難しく、授乳中の女性たちは乳腺炎やお乳が詰まっている状態との区別に悩んだと語っていました。

**授乳中のしこりで乳腺炎と区別がつきにくく、おかしいと思いがら時間が経ってしまった** [語りを見る](#)

**語り手の立場**  
 乳がんや前立腺がんは  
 診断時年齢別、認知症  
 は診断名や本人と介護  
 者の関係等で体験談を  
 探せます

**「患者にしか聞けない言葉」がある**  
**乳がんの語り**

乳がんを体験した20才代から70才代の女性48名と男性1名の語り映像があります

乳がんは、女性に多く見られるがんですが、稀に男性も罹患することがあります。近年、我が国において増加傾向にあり、女性では40代後半から50代にかけての年齢が罹患のピークとされています。70代の女性48名と男性1名に、インタビューした内容を掲載しています。各テーマについて、体験者たちの1-4分の短い「語り」の映像・音声・テキストを見ることができ、さらに詳細な体験談の語りを見ることもできます。それぞれのページには、乳がんの語りをクリックしてください。(2009年12月公開)

[公開日] 2014/04/10

**発見**

異常の発見  
 診断されたときの気持ち  
 診断・医師の選択  
 治療法の選択・意思決定  
 セカンド・オピニオン

**治療**

乳房温存術  
 乳房切除術  
 リンパ節郭清とセンチネル生検  
 術後遺感とリハビリテーション  
 リンパ浮腫  
 乳房再建術  
 乳がん剤・分子標的薬の治療  
 脱毛の影響  
 放射線療法  
 ホルモン療法  
 補完代替療法

**再発・転移**

再発・転移の徴候と診断  
 再発・転移の治療

**生活**

再発予防と体調管理  
 病気と仕事の関わり  
 経済的負担  
 からだ・心・パートナーとの関係  
 家族の思い・家族への思い  
 周囲の人との関係  
 妊娠・出産への思い  
 妊娠・出産への思い

**語り手の人たち**

語り手の年代別 (診断時の年齢)

- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代
- 70歳代以上

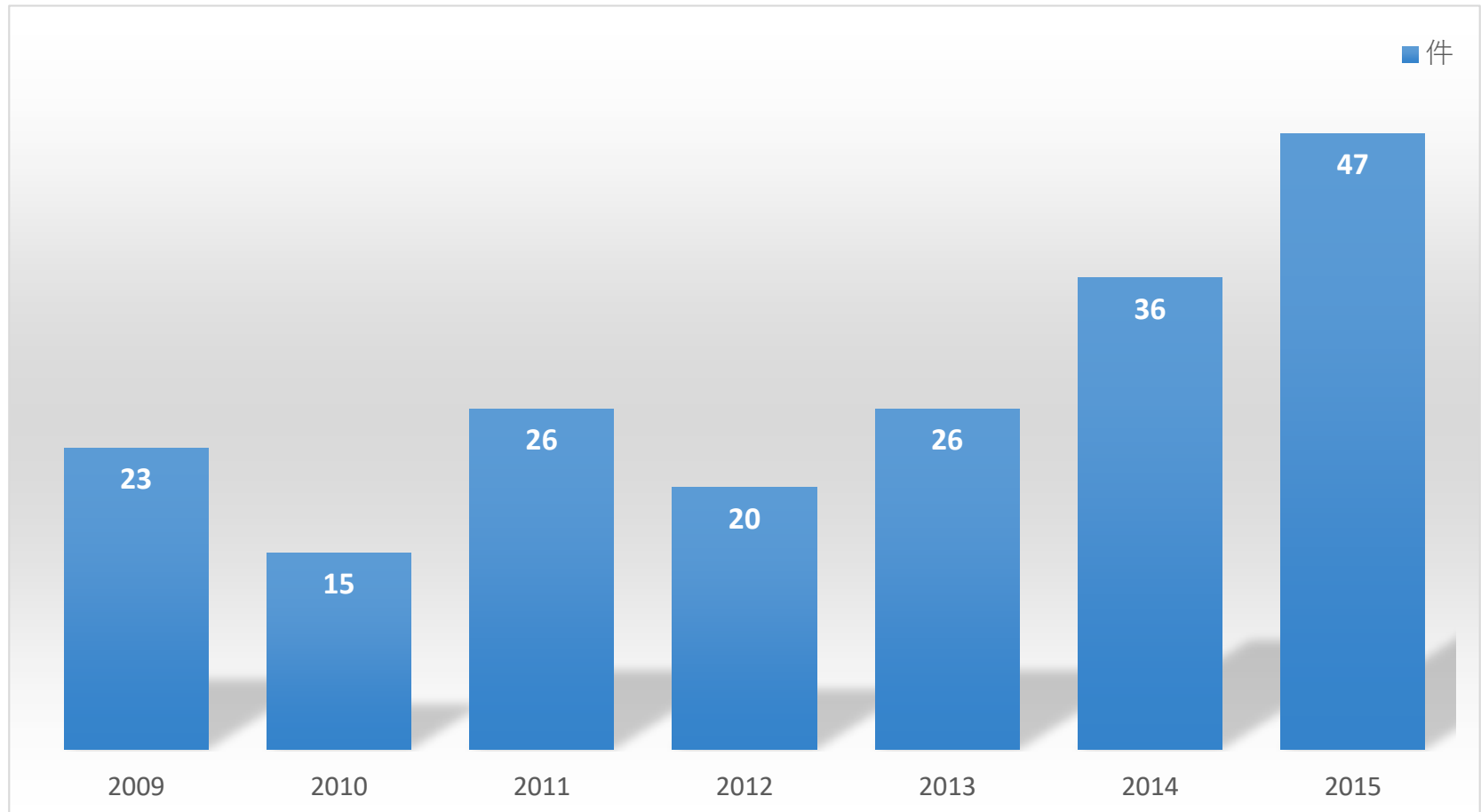


# データベースの特徴

---

- インターネットですいつでも、どこでも見られる
- 映像、音声、文章で見ることができる
- 一つの病気・医療体験で30-50人にビデオインタビューしており、多様性がわかる
- テーマ、年齢、診断名、立場別、キーワード等で目的によって検索可能
- 一つの体験談が2-3分と視聴しやすい長さ

# 教育的活用の申し込み件数 (2009-2015年度)



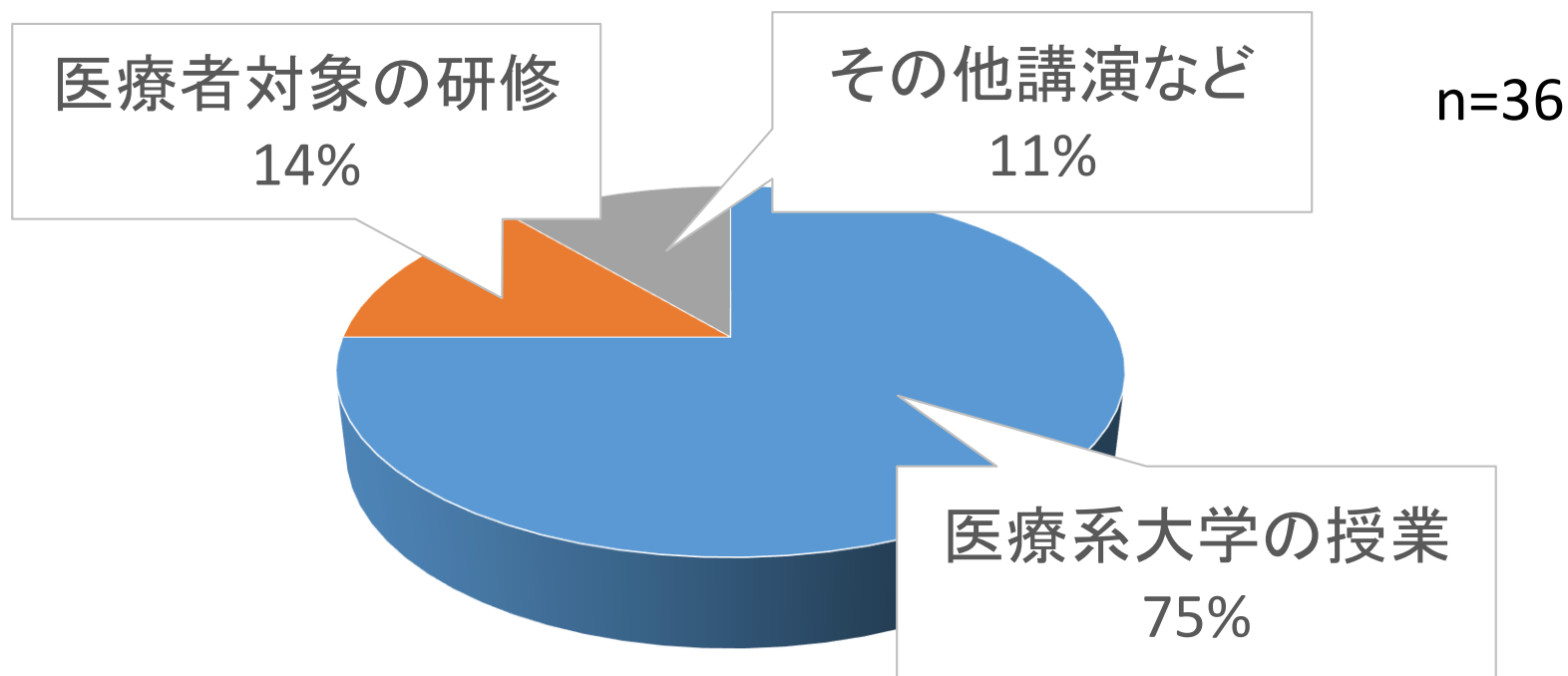
# 本研究の目的・方法

---

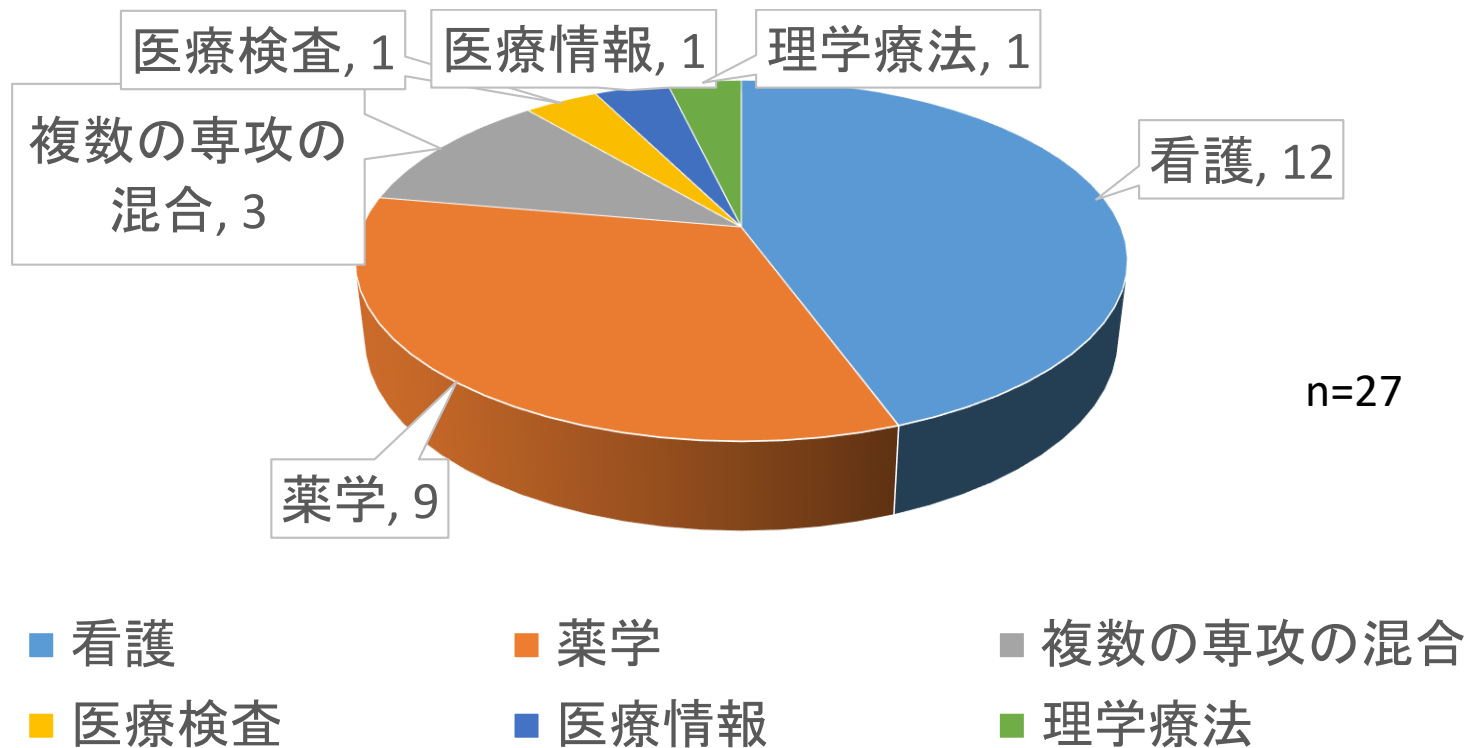
- 目的: DIPEX-Japanのウェブサイトで公開されている語りを教材として活用した目的と学生の反応を検討した
- 方法: 活用の申し出があった教員を対象にメール調査を実施。調査項目は教材として用いた科目と学習目標、語りの使用目的、使用した語りの内容と活用方法、学生の反応等。調査期間は2014年4月～2015年3月。今回の検討は、看護系大学の授業に関する回答に焦点を当てた。分析方法は記載された回答を意味の類似している内容ごとにまとめた



# 活用の場面（2014年度）



# 大学等の授業 受講生の専攻別件数



# 受講生の学年と科目（基礎教育）

学部・学科・専攻と学年	件数	授業科目例
看護 3年生	3	終末期看護論、リハビリテーション看護、老年看護
2年生	3	成人看護学急性期看護、慢性期看護援助論
1年生	1	成人看護学概論、
混合クラス 1年生	1	普遍教育教養展開科目「生きるを考える」
1年生	1	臨床コミュニケーション論
1年生	1	フレッシュヤーズゼミ
3年生	1	医療総合講義
薬学部 4年生	1	医療心理学
2年生	2	臨床心理学、医療心理学
1年生	3	キャリア教育、ヒューマニズム
医療検査学科 3年生	1	テュートリアル教育
理学療法学科 3年生	1	理学療法管理学
医療情報学部 3年生	1	健康管理概論



# 語りの活用方法

方法	n
自己学習やレポートの題材として提示	9
グループディスカッションのトリガーとして視聴	6
講義内容の理解を深める事例として視聴	5
その他(コミュニケーション教育のシナリオ作成)	1

授業時間と回数:

90分×1コマが5件、75分×2コマが2件、40分×1コマ、60分×8コマ、90分×3-5コマなど1件ずつ

# 活用された語りの種類

■ 1回の授業で活用された語りのクリップ数:

平均7.59 ( 範囲:1-26)

語りの種類	トピック名	n
乳がん	診断されたときの気持ち	39
乳がん	からだ・心・パートナーとの関係	19
乳がん	抗がん剤・分子標的薬の治療	11
前立腺がん	診断されたときの気持ち	11
認知症	病気であることを伝える	9

# 語りの活用目的

---

- <対象の理解>
- <体験から学ぶ>
- <看護者としての姿勢>



# 対象の理解

---

- 看護の対象である患者の病いの特徴、個々人の反応の違い、多様な人生観や価値観といったことの理解を深める
- 例「リハビリテーションを必要とする生活機能障害を抱えて生きる人々の身体的・心理的・社会的特徴を深く理解できる」(リハビリテーション看護)
- 例「複数の患者の異なった語りを提示し、個々人の気持ちに沿って考えることの必要性と多様な価値観を実感してもらおう」(老年看護)

# 体験から学ぶ

---

- 患者の語りの視聴を通して、学生が患者の思いや気持ち、医療者へ望むことへの理解を深める
- 例「死に向き合う人の気持ちを少しでも理解できること、病気の経過に伴う心のありようについて理解できることを目指した」(臨床コミュニケーション)
- 例「病いを体験している人の語りを視聴することで患者が医療に期待していることや看護師は何をなすべきか考えるきっかけを作りたい」(成人看護)



# 看護者としての姿勢

---

- 患者の語りに触れることで、自分の態度や思いに気づき、医療者としてどうあるべきかを考える
- 例「病いととともに生きる高齢者に対し、今後、自分が看護者としてどのような姿勢で関わるかを考察する」(老年看護)
- 例「がんや認知症という病いや『患者』、生と死について、自分が抱いていた先入観や自分の気持ちに気づくことができる」(混合クラス)



# 受講生の反応（教員による評価）

---

- **授業に取り組む姿勢**: 複数の患者の語りを聞くことが新鮮なようで熱心に視聴していた。短いので集中して聞いた。
- **患者理解**: 患者が持つ検査や治療の知識の多さに驚き、患者への敬意を表していた。イメージがわかりやすかった。患者さんが周囲の人に理解してほしいという気持ちがあることがわかった。治療の実際、副作用の過酷さ、生活への影響などについて理解が深まった。

# 受講生の反応(つづき)

---

- **看護の難しさ:**個々に応じた看護の難しさ、患者の声を聞く重要性を感じていた。その人らしさを見つけて支えていくことの難しさを実感していた。アセスメントで全体像をとらえることは難しいと痛感した。
- **医療者としての自覚:**患者のことに耳を傾けることが自分に出来るのか、まだまだそのような知識や態度が足りない等、自分が将来医療者となる自覚が感じ取れた



# 考察

- 概ね、患者の語りを活用する際に教員が意図した学生の学びが得られていた。
- 学生は、安易に「患者を理解できた」と結論付けず、看護師として1人の患者に向き合い、「理解することの難しさ」に気づくことができていた。
- 看護の対象である「患者」がどのような思いなのか、何を求めているのか、だからどのような関わりが必要かを考える機会となっており、対象化された紙面上の患者ではなく、そこに確かに「患者」が存在することを意識した看護の役割を考えることにつながっていた。



# まとめ

---

- 患者の語りの視聴は、学生の「学習の動機付け」となり、「病いや患者の理解」が深まり、「医療者としての態度・倫理観の育成」につながる「患者中心の医療を学ぶ」ために有用な教材であると示唆された。